

内閣総理大臣杯争奪
第39回日本車椅子バスケットボール選手権大会
個人トータル表

2010年5月4日 11時40分開始

2回戦

東京体育館 A-3

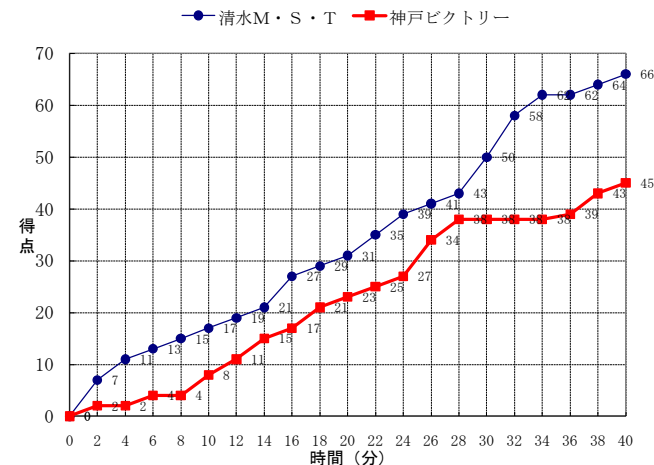
◎
清水M・S・T
(近 畿) 66

17 1クォーター 8
14 2クォーター 15
19 3クォーター 15
16 4クォーター 7
45 神戸ビクトリー
(近 畿)

番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
4	向山 佳宏 (3.0)	6	0	3	0	-	-	2	* 4	立花 隼 (2.0)	0	0	0	0	-	-	0
* 5	川西 恵三 (2.0)	4	0	2	0	-	-	1	5	村上 司 (3.0)	12	0	6	0	-	-	1
6	井上 順 (2.0)	2	0	1	0	-	-	2	* 6	尾野 隆広 (1.5)	6	0	3	0	-	-	2
* 7	植田 真悟 (2.0)	12	0	5	2	-	-	1	9	谷垣 啓 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0
* 10	佐野 裕明 (4.0)	5	0	1	3	-	-	0	* 10	坂本 智 (4.0)	14	2	4	0	-	-	4
11	西川 雅敏 (3.0)	4	0	1	2	-	-	0	* 11	重松 勇二 (2.0)	4	0	2	0	-	-	1
* 12	福井 俊一 (2.5)	8	0	4	0	-	-	3	13	鈴木 秀和 (3.0)	4	0	2	0	-	-	2
* 13	是友 京介 (3.0)	25	1	11	0	-	-	0	* 15	西海 良平 (4.5)	5	0	2	1	-	-	1
14	柏村 洋平 (1.0)	0	0	0	0	-	-	2									
18	川原 義光 (1.0)	-	-	-	-	-	-	-									
19	龍田 章一 (2.5)	0	0	0	0	-	-	1									
20	本郷 裕 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0									
コーチ	佐野 香織								コーチ	李 生美							
Aコーチ	小林 宏								Aコーチ	徳永 雄一							
マネージャー	谷口 佳代								マネージャー								
マネージャー	井上 元太郎								マネージャー								
マネージャー	野田 徳文								マネージャー								
合計		66	1	28	7	0	0	12	合計		45	2	19	1	0	0	11

主審： 岸 良太郎
副審： 清宮 太郎
副審： 福田 典子

得点経過



〔戦評〕

【1Q】清水はマンツーマンディフェンス、神戸はゾーンディフェンスでスタート。清水のタイトなディフェンスにより神戸オフェンス陣はインサイドにボールを入れられない。ディフェンスでリズムをつくった清水は、#13は友のアウトサイドからのシュートで連続加点し主導権を握る。神戸は#10坂本を中心に攻めるが9点差をつけられた時点でT0を取得して悪い流れを断ち切ることを試みる。しかし清水のディフェンスを崩し切れず清水9点リードで終了。

【2Q】神戸は#10坂本の3Pで反撃開始。#5村上、#6尾野も連続加点しリズムに乗る。清水はT0を取って立て直しを図るがインサイドのシュートがリングに嫌われ得点が伸びない。一方神戸はインサイドへのパスも通るようになり#5、#6の得点で詰め寄る。神戸はいい流れでゲームを進めるが、清水#13は友が速攻を含む3連続ゴールで突き放し、清水8点リードで終了。

【3Q】清水の厳しいディフェンスに攻めあぐねる神戸はシュートクロックぎりぎりでのシュートが続く。対する清水は#13は友の得点が続き、徐々に得点差が広がる。序盤は清水優勢でゲームが進むが神戸は#5村上、#13鈴木の連続ゴールと#10坂本の3Pで一気に3点差に迫る。清水はたまたまT0を取り立て直しを図る。T0後はロングパスを多く用いてコートを広く使いだした清水は、オフェンスのリズムが良くなり3点差まで詰め寄せられた点差を12点に広げて終了する。

【4Q】神戸は失ったリズムを取り戻すことが出来ず失点を重ねてしまう。3Qで機能していたオフェンスも、清水の厳しいディフェンスを切り崩すには到らず得点も入らなくなってしまった。清水は24秒オーバータイムを立て続けに取るなどディフェンスでリズムを掴んで試合を優勢に進めた。#12福井の3連続ゴールや#7植田の活躍により一気に点差を広げることに成功し、21点差での勝利となった。

(担当:津野/鈴木(悠)/萩原)